

持続可能な地域公共交通の整備

～平和台線、布佐線の運送サービスの継続について～

超高齢社会のなかで、地域公共交通の重要性が高まっています。以前行った住民意向調査では、「病院バスルートが減らないよう願っている。」、「バスの本数がどんどん減っていくので心配。」など、民間バス等の減便や路線廃止を心配する声が上がっていました。

しかし、コロナ禍での乗降客数の減少や燃料代の高騰などによる民間バス事業者の経営悪化により、更なる減便や路線廃止の可能性が高まっています。

そこで、今回は、いかに地域の公共交通を持続可能なものにしていくか、市の見解をお尋ねします。

(1) 地域に最適な旅客運送サービスの継続

2020年11月27日に「持続可能な運送サービスの提供の確保に資する取組を推進するための地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」が施行され、地域に最適な旅客運送サービスの継続が求められています。

路線バス等の維持が困難と見込まれる段階で、自治体は関係者と協議してサービス継続のための実施方針を策定し、公募により新たなサービス提供事業者等を選定する「地域旅客運送サービス継続事業」を創設することになっています。

ア. 平和台線、布佐線の路線バスの維持についての市の認識

昨年未、事業者から平和台線、布佐線は、更なる減便や路線廃止の意向が市に示されたと聞いています。

市は、現在これらの路線バスの維持が困難と見込まれる段階にあるとお考えになっているのか、市の認識をお聞かせください。

イ. 平和台線、布佐線のサービス継続のための実施方針の策定と「地域旅客運送サ

「サービス継続事業」

市は、路線バス等の維持が困難と見込まれる段階で、サービス継続のための実施方針を策定し、「地域旅客運送サービス継続事業」の創設をしなければなりません。

その実施方針に定める路線バスに代わるメニューとして、

- ① 乗合バス事業者など他の交通事業者による継続
- ② コミュニティバスによる継続
- ③ デマンド交通による継続
- ④ タクシーによる継続
- ⑤ 自家用有償旅客運送による継続

⑥ 福祉輸送、スクールバス、病院、商業施設等への送迎サービス等の積極的活用などが示されています。そして、地域における輸送資源を総動員して移動手段を確保するよう求めています。

市としては、平和台線、布佐線の路線バスの維持が困難と見込まれる段階になった時、どのような実施方針と「地域旅客運送サービス継続事業」をお考えになっているのか、お聞かせください。

(2) シャトルバスについて

シャトルバスについては、市内路線バス事業者である坂東自動車(株)が、布佐・新木地区と我孫子又は天王台駅を結ぶ新規路線の運行を計画しています。

市は、布佐・新木地区の交通利便性向上のため、シャトルバス運行の実現に向けた支援を行っていきたいと考えているそうです。

ア. 実証運行の予定

2020年度に成田線終電後の深夜シャトルバスの実証運行を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により事業を延期した経緯があります。

今後の実証運行の予定をお聞かせください。

イ. シャトルバスの実証運行の路線について

2020年度の第2回我孫子市地域公共交通協議会の資料の中に、我孫子市が作成した検討路線(案)があります。(案)では布佐駅と新木駅の間はこれまでの平和台線の既存バス停を利用し、新木駅南口から天王台南口の間はシャトル区間として国道356バイパスを運行するというものです。

来年度に予定されている実証運行は、この運行経路で実施されるのでしょうか、シャトルバスの実証運行の路線をお示しく下さい。

ウ. 実証運行の目標

シャトルバス実証運行計画書の目標のところに、「収支面で採算が合う運行となれば、民間路線として運行を行うことを目標としていきます。」と書かれていますが、収支面で採算が合わなければシャトルバスの運行計画はなくなるということなのでしょうか。

また、同じく目標のところに、「新木・布佐地区の公共交通機関の路線再編も含めた基礎データとして活用していきます。」との記述もありますが、「新木・布佐地区の公共交通機関の路線再編」とは、どのようなことをお考えになっているのか、お聞かせください。